

会 議 の 名 称	第1回あま市放課後子ども教室のあり方研究会
開 催 日 時	令和2年6月29日（月）午前10時から11時30分まで
開 催 場 所	美和文化会館内 シルバーカレッジ教室
内 容	1 あいさつ 2 協議事項 （1）委員長・副委員長の選任について （2）令和元年度七宝地区放課後子ども教室について （3）令和2年度放課後子ども教室について （4）令和3年度放課後子ども教室について 3 その他
資 料	次第 あま市放課後子ども教室のあり方研究会委員名簿（資料1） 令和元年度七宝地区放課後子ども教室実施プログラム（資料2） 令和元年度七宝地区放課後子ども教室アンケート結果（資料3） 令和2年度あま市放課後子ども教室について（資料4）
公開・非公開の別	公開
傍聴人の人数	0人
出席委員	木全（克）委員、木全（孝）委員、村瀬委員、井村委員、 溝口委員、林委員、石塚委員、川原委員、村上委員、宮崎委員、 大西委員、立松委員、鎌倉委員
欠席委員	
事務局	後藤福祉部長、樋口子育て支援課長、林主幹、井上課長補佐、 松永主査、川村主査

事務局	開会
福祉部長	あいさつ
事務局	資料確認 委員紹介及びあいさつ 事務局紹介及びあいさつ 協議事項 (1) 委員長・副委員長の選任について 委員長は民生委員児童委員協議会会長井村委員、副委員長は元日本福祉大学社会福祉学部准教授木全(克)委員
井村委員長	あいさつ 協議事項 (2) 令和元年度七宝地区放課後子ども教室について
事務局	令和元年度七宝地区放課後子ども教室及びアンケート結果について説明。
井村委員長	はい、ありがとうございます。説明が終わりましたので、質疑に入ります。 私も見学に出かけた時に、すごく大きな声を出しても誰にも怒られない、子どもたちは自由にやっておりました。すごく楽しそうにやっているなと私は思いました。家や公園でも最近では遊べないし、たまたま行った時は体育館で球技をやってましたけど、ほんとにすごくのびのびしているなという印象でした。他の委員さんはどうでしたか。
川原委員	質問とかではないのですが、こうやって皆さんと話し合いながら、実際に始まった取り組みで、アンケートの結果として、子どもたちも保護者の方も満足度が高いということと、ご協力してくださっているスタッフの皆さんも非常にやりがいを感じて取り組んでいただいているんだなということが見てとれてよかったなと思います。
立松委員	先ほど、スタッフの参加がなかったところ、秋竹小に最初スタッフが8名来られて、その後はどんどん減ってしまって、半分以下の

事務局	<p>ご協力だった。有償ボランティアという形だけれどもご都合が悪くて参加いただけない状況が毎回続いている中で、アンケートを見ると毎週月曜日可能ですという回答があります。その辺りのずれは、なぜなのでしょう。直接お聞きになってらっしゃらないと分からないかもしれませんが、不思議だなというふうに思いました。</p> <p>実際、秋竹小学校は立松委員が言われましたように、後半で人数が変わってきています。この8名のうち全10回来ていただいたスタッフは3名でした。残り5名のスタッフの方につきましてはどうしても他にお勤めをされているといったこともございました。ただ定員40名で実施させていただいたところ、児童登録者数8名という人数でしたので、事務局の考えとしては少なくとも2名のスタッフが揃っていれば実施できるかなと考えておりました。5月から実施する話をスタッフと昨年していた時点では4名のスタッフの方に引き続きお手伝いしていただけるという話はいただいております。立松委員に言われましたように、有償ボランティアで実施していますので、来ていただいた時の時間数のみお支払という形になりますが、これからお仕事の都合だったり、そういったことが空けば、月2回程度ならいけますというお話でした。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございました。他にまだご意見ありませんか。</p>
木全（克）副委員長	<p>川原委員からのお話もありましたように、皆さんで積み上げてきて、当然の結果じゃないかなと思います。私は美和や少し甚目寺も関わっている中で、始まったばかりですのでアンケートの中にはなかったんですけど、家庭で話題にのぼったかのぼらなかったかというところですね。防災の人が非常に熱心で防災グッズで緊急の笛やスリッパを作る、簡易トイレもやりました。続けてやっているところは説明会に保護者が来ない状況で書類1枚のみ提出して継続されます。その辺のところは始まったばかりですので、家庭と繋げられるような方向に持っていただけるといいと思います。スタッフの呼称ですけど、コーディネーター、サブコーディネーター、安全管理員というのがあって、美和地区は呼び方が違います。またスタッフに対してしっかりとした保障や手作りの名札ではなく、もう少し考えていただいて、スタッフの意識を向上させていくのと、謝礼1時間千円は命がけでされている方もみえるのに本当に安い。その辺のところをもう少し考えていただけると次へ繋がると思いま</p>

井村委員長	<p>す。お願いばかりで申し訳ありませんが宜しくお願いします。</p> <p>ありがとうございました。これからについて、皆さんと協議していく中で汲み取りながらいい方向が見つかればいいなと思います。他に何か。もう少し聞きたいなということはありませんでしたか。よろしいですか。</p>
宮崎委員	<p>もともと始まった時の理念というものがあると思うんですけど、スタッフさん達は、熟知しているのかなというのが一つあります。木全（克）副委員長が言われるように家に帰って話題にのぼるのかというところなんですけども、お迎えに来る時間は皆一緒だと思うので、そこでスタッフや子どもが今日こういうことをしましたよと母親たちに説明する時間があってもいいかなと思います。</p>
井村委員長	<p>もしかしたら子どもさんだけだとお母さんには伝えてないこともありますよね。言葉がすごくやっぱり大切ですね。他によろしかったですか。次に行きたいと思います。</p>
	<p>協議事項 （3）令和2年度放課後子ども教室について</p>
事務局	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため現在放課後子ども教室を休止しており、今年度の実施の有無等についてご意見をいただきたい旨を説明。</p>
宮崎委員	<p>人数の多い甚目寺、甚目寺南小放課後子ども教室は学童も人数が多くて、そこで学童に入れなかった子どもたちが放課後子ども教室に入っているという、大分前に私たちがしたアンケートにはあったんです。今回のコロナで子ども教室は今やってなくて、学童はやってるんですけど、困ったご家庭はあったのかなと。学童に行けなくて放課後子ども教室に入れている、17時まで預かってもらえるという現状の中で本当は仕事をしていて、預けたいんだけど預けられない、学童に入っていないから預けられないっていうご家庭はどのくらいの割合でみえたのかというのは分かったんですか。</p>
事務局	<p>現在、子ども教室に登録されたお子様のなかで、甚目寺小学校で4名、南小学校で2名の保護者の方から連絡がありまして、4月か</p>

宮崎委員	<p>ら実施する予定だった子ども教室は17時までですが、子どもたちを預けないと保護者の方が家にいないので、どうしたらよろしいでしょうかというご相談がありまして、その6名のお子様につきましては児童クラブの方で対応できたという状況です。</p>
事務局	<p>その方は学童の方に移られたのですか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
宮崎委員	<p>今の状況だと学童に入っている子たちは、放課後子ども教室に入れないので、それも色々と考えていただきたい。うちの子どもたちも学童の方に入っているので、放課後子ども教室に入れないんです。月に2回程度のことなんで、そこを上手くできるようにしていただければいいなと思ってます。</p>
事務局	<p>昨年度も大西委員、宮崎委員からお話があって、学童に入っている子も、これだけ登録が少ないので月2回程度であれば、そのまま子ども教室へ行き、終わった後にまた児童クラブに戻ってというご意見もありました。昨年度は10月から開始したということもあり、年間をとおして実施した場合に登録者数がどれだけ伸びていくのかというのを見たかったのですが、このコロナの影響でまた延びてしまいました。ただ事務局として考えて、お話しさせていただいたのは昨年度、まずは子ども教室を今国は児童クラブと一体型でというようなことを言っておりますが、まずはあま市版の子ども教室を年間、年度を通してどれだけの参加が子どもたち見込めるかなというようなことがあり、今年度についても、児童クラブと離して登録をしていただくというご案内をさせていただいております。</p>
宮崎委員	<p>とりこぼしが多いような気がしますので、そこはもうちょっと前向きに考えていただきたいと思います。連続で申し訳ないですが、コロナの影響で三密とか書かれていますけど、今のままだと一つの部屋の中で狭い空間で集まるわけじゃないですか。どのような実施をしていくのか、例えば体育館を使ったりだとか、校庭を使うだとかそういう広いところ、使うことができればいいと思うんですが、その点はどうでしょうか。</p>
事務局	<p>そういった委員さんからのご意見をいただいて、七宝の4小学校、</p>

	<p>美和の4小学校は、今までと同様の体育館を基本に実施していく。甚目寺小、甚目寺南小学校につきましては、一つの教室で実施し、また一つの机に2、3人座って活動しておりますので、三密のリスクが体育館で実施するより非常に高いということは、甚目寺についてはあるかと思えます。</p>
宮崎委員	<p>ありがとうございます。今、甚目寺も止まっている状態。</p>
事務局	<p>はい、すべて休止しております。</p>
宮崎委員	<p>今後新規で宝小と七宝小がスタートしますよね。その時にだいたい他のところの学校もみんな実施するんですか。全体的に。</p>
事務局	<p>全体で一斉にスタートできたらなと思ってます。</p>
宮崎委員	<p>そうなんですね。甚目寺はコロナの影響で実際必要ななかったわけですね。</p>
事務局	<p>毎日がということですか。</p>
宮崎委員	<p>毎日じゃなくても大丈夫だったということですよ。なのでこれを機に全部一緒のスタイルでスタートするっていうのはどうなんですかね。</p>
事務局	<p>そういったご意見をいただいて、また事務局の方で、各小学校にお邪魔させていただいて、当然甚目寺はまだそういったスタイルで実施してないので、もしご意見をいただいて、その方がいいという話になっていけば学校と調整させてもらい、体育館が使用できるかどうか日程調整をさせていただくことはできます。</p>
林委員	<p>今の話、関連して、私も文科省からこういう方針も出てますし、コロナの関係で止まっていますので、これを一つの機会にしてもう一度仕切り直しで作り直す。井村委員長のあいさつの中に新しいプログラムを作成する話も出たかと思いますが、そういうことであればこの機会にやっぱり甚目寺の回数と美和、七宝の回数の違いもあるし、なかなかコロナの関係については、ワクチンもできていないとなると、果たしてこの年間約190回をやってリスクがすごく高</p>

<p>木全（孝）委員</p>	<p>いと思うんですね。やっぱりきちんとワクチンができるまでは慎重にやらないと感染力が強いし、ソーシャルディスタンス、三密をすごく言っているから、宮崎さんおっしゃったように、体育館、広くとれますし、数を限定してやってかないと取り返しがつかないことでは駄目ですので、やっぱりもう1回ここでコロナウイルスのことをきちっと考えて年間どのくらいでいいのか、プログラムをもう1回作り直さないとも私も駄目じゃないかと思って、この際甚目寺も一緒に合わせていったらどうかなというふうに思います。</p> <p>今、学校は6月から再開して体育の授業をどうするかは、文科省のガイドラインにそってやっております。いわゆる、密にならないよう、そしてこれだけ暑いですから、熱中症対策もありまして、体育の授業に限ってはマスクを外してもよいという形でやっております。要は種目をあまり密にならないものは何がいいかなという中で、暑い中で縄跳び、それからかけっこも離れてとか、子どもたちは本当に楽しみにしてやっています。ただ体育の授業で関わり合いがないのが、残念だなという気はしながら授業をしております。そうすると今回七宝と宝は10月の実施予定で先程から色んな委員の方から同じように10月からという声もありましたので、自分には10月だと多少暑さも和らぐのではないかなと、マスクの着用等を考えながら、また今は体育館を使用する場合、消毒液をおいてやっております。始まる前に手指消毒をして体育館の授業を行う。そういった消毒等も色々と子ども教室の中で、ガイドライン的なことを作りながらやっていけばいいかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>川原委員</p>	<p>私、さっき宮崎委員と林委員がおっしゃったようなソーシャルディスタンス等をとることはもちろん、とても大切なことだと思うんですが、ただ、この地域のそれぞれ甚目寺地区、美和地区、七宝地区を統一していくかどうかというのはまた別の議題ではないかなと思うんですね。それぞれの地域の中で先に始まっているところ、そこにもう需要が確実に定着しているところもあるので、もちろん各事業きっちりソーシャルディスタンスをとっていく、それでやれる形でやっていくというのはもちろんですが、それで全部統一してするのかどうかはもうちょっと慎重に考えてもいいのかなというふうに思います。</p>

大西委員	<p>皆さん、色々ご意見出てますけど、甚目寺、甚目寺南小は190回ぐらいやっている。七宝は今まで月曜日やってたんですけど、林委員も言われたように一つ回数を決めてですね、やっていただくということと、最近三密で色々話がありますけど、これもですね、木全（克）副委員長とお話したんですけども、三密にならないような運動又は工作とか、そういうプログラムを作っていただいでやっての方が私はいいと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
林委員	<p>賛成ですね。</p>
井村委員長	<p>よろしいですね。</p>
大西委員	<p>甚目寺南小、甚目寺小はこういうふうに現状やりたいよっていうような話はできているんですかね。</p>
事務局	<p>休止というご案内しかしてない状況でございます。今、委員さんから三密のリスクを避けるために体育館で実施と回数のお話ができました。その中で川原委員からご心配の声をいただいたんですけど、給食のある日ではなくて、やり方をガラッと変える場合は、再度登録いただいている甚目寺小、甚目寺南小の保護者の方へ、それをもし変えるという形になりますとこの登録された保護者の皆さまに再度ご連絡をして、こういった形で子ども教室実施いたしますがということのご連絡は当然必要になってくる。ただ、先ほども言いましたけど、甚目寺小と南小、実施形態は1つの教室を使った非常に三密のリスクが高いというところもございまして、各委員さんからいただいた、体育館、三密を避けるような形を考えていながら、体育館が使用できるかどうか小学校に話をしていかなければいけませんし、回数がどれだけできるかもあります。またスタッフの問題、今までと形態が変わりますので、スタッフにも話をしてお協力いただけるかどうか協議をしていかなければいけないと思っております。</p>
大西委員	<p>スタッフ何名ぐらい。</p>
事務局	<p>各小学校4名ほどのスタッフにご協力いただいております。</p>

林委員	<p>甚目寺、甚目寺南を10月から新しくやろうとすると色んな意味で形態が変わってしまうので、事務局が言うようにやっぱりきちんと説明をしないとまずいと思うし、今までの流れで行うと新型コロナウイルスの対処ができませんので、改めて再度文章を出して、形態が変わりますときちんと伝えて新型コロナウイルス対策をしてやっていかなければいけないと思います。</p>
村上委員	<p>今のご意見で甚目寺の活動内容を違うものにする子どもさんやスタッフは予定を入れてやってらっしゃるので、難しいというか寂しいような気がします。皆さんやっぱり予定してらっしゃるので色んなことをコロナのことも考えながら、こういった計画をされたんじゃないですかね。どうなんですかね。</p>
林委員	<p>今は中止してますよ。</p>
村上委員	<p>中止しているけども、10月から足並みを揃えるというのはどうかなとは感じますけどね。</p>
林委員	<p>甚目寺の保護者の方も今までと同じようにはできないということは多分感じてらっしゃるんじゃないかなと私は思います。コロナの勢いが止まらないもんね。日本の場合は地域限定ですけど。</p>
村上委員	<p>そうですね。</p>
林委員	<p>ただ交流が段々激しくなってくると県境をまたいでくるといつどうなるか分かりませんもんね。そこら辺が一番心配してます。</p>
井村委員長	<p>全然違うことをしていかないと、多分厳しい状態ではないかと私も思います。昨年のプログラムの中でも、同じようなプログラムを七宝地区では上手にかぶらないように進行していますよね。スタッフの方の人数も限られているなら、かぶらないところだったらこういうプログラムの作り方でしていったら、ただ毎日やっぱりそれができるのかできないのかという状況としては、保護者の方も今の状況を多分把握されていると思います。それで改めて10月からスタートするのならやっぱりここで一つ新しくやる機会があるかなと思います。10月から一斉ということで、美和4校、七宝4校、甚目寺2校になりましたけど、残る甚目寺の2校も今年これができれば来</p>

	<p>年の予定に入れながらある程度あま市の中で皆さん共有できるプログラムをやってもいいのではないかなと思います。スタッフは本当に限られていますし、毎週月曜日いいですよっていうスタッフの方も1カ所だけではなくて、もし都合が合う日ができたら違う学校へお願いすることもできますし、本当にどのくらいのスタッフが集まるか難しい状態だと思います。それで経験が積んでみえるスタッフの方と一緒に他の学校も同じような形でやった場合、やっぱりできないプログラムは無理をしない方がいいと思うんですよ。今まで色んな経験されたことを組み合わせながらそれぞれやっていくっていうのが、とにかく無理のないスタートが私は一番いいと思います。後からやっぱりやめますでは、やっぱり駄目だと思います。それでまず10回、ここから本当に皆さん努力されてお手伝いの方が増えたら、またそこから増やすということは可能かなとただ最初に無理をやっぱりやってしまうと本当にせっかくいい子どもさんの遊び場とかをとっちゃうことになってしまいますので、やっぱりいいプログラムを子どもたちには与えたいなと思います。どうでしょうか。</p>
<p>木全（克）副委員長</p>	<p>新しいスタイルをといるところですけど、10月を目標にどれだけ決意をもってやれるかということで、体育館でやればずいぶん回避されるんですけど、新たにこういう教室をやる場合に、どういうものを展開していくか、大きな声でしゃべれなかったら、コミュニケーションボードということで、〇×作ってやるとか色んな方法がたくさんあるんですよ。そういう基本ラインをもう一回共通事項として抑えていただいて、そして第2波、第3波が、今地域性があるから、この辺あまり怖がることはないと思うんですけど、そういう足並みを揃えてやっていくということと、10月から同時に3年度もあるということになると、生涯学習課、豊富な人材をお持ちですし、大西委員、立松委員、村上委員も色々関わっていただいていますので、これは力を結集して進めていただくというところは長い目でみるとお願いしたいなと思ってます。今申し上げましたようにそういうかたちでプログラムができればという提示は一応資料で作りましたので、おっしゃっていただければ皆さんにお分けしたいと思います。</p>
<p>井村委員</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>川原委員</p>	<p>三密を避けるというところで、会場を体育館という話が出るん</p>

<p>立松委員</p>	<p>ですけど、反対に狭い教室しか取れない場合は定員を下げるということもいいかなと思うんですね。今、まだこれから始まる七宝や宝はいくらでも定員は検討できると思うんです。実際に始まっている伊福、秋竹も定員の半数で経緯してきたこともありますので、会場の広いところを借りられるんなら一番ですけど、そうじゃない場合は定員を見直す方法もありなのかなと思います。もう一点、立松委員からご質問があったスタッフの件、同じ人が出てきてというよりは来れる来れない日があって入れ替わっているということですよ。これからスタッフを募集する時に必ずこれだけの日数が出る方を募集するのか、あるいはこの中で出れる日は出ればいいと定員数の倍募集するのかというところでもスタッフの調達の仕方が変わってくるのかなと思います。</p> <p>今、スタッフのお話で、美和は放課後子ども教室の歴史がありまして、4小学校でスタッフを融通してたという、いい方は変なんですけど、最初は本当に無償で途中から費用弁償が出て、それでもやっぱりお休みになられる方がいらっしゃいました。ただですね、もう少しお支払いいただいて、責任を持っていただかないと、やっぱり私たちも子どもたち当時40名とか来た子どもたちを急に休んだからと言って、スタッフ3人でみれるかというやっぱり安全面っていった時に、子どもの命を預かるわけですから、それに対する給与でもあると思うんですね。だからやっぱりスタッフさんにあんまりこう脅迫してもいけませんけど、でもやっぱり誇りを持って子どもたちを見守るっていうところで、それが足りないのであれば、もう少しお支払いをして、その変わり責任を持っていただくということと、あとどうしても人間ですから、お休みせざるを得ないということも当然あると思うんですけど、事前に分かっていたら前は2小学校ずつ日にちをずらしてたと思うんですね、美和の場合は。だから日程をずらせば、上手くスタッフをどうしてものは来ていただく。毎週OKのスタッフもいらっしゃると思うし、もう少し柔軟性があったとか、全体的にスタッフが守るべきルールみたいなものも急には無理だと思うんですが、そういったものも全体的に少しずつガイドラインやルールをスタッフさんの育成といいますか、親御さんに対する協力ももちろんなんですけど、そういう地域と協働っていうところがだんだん強化されていくようなイメージで考えていけるといいのかなというふうに思います。回数なんかは、やれる範囲からやっぱりスタートしていかないと回数増やしたはいいけど、スタ</p>
-------------	---

	<p>ップが来れないというふうだと、子どもたち楽しみにしているのにやれないという状況ではいけないと思いますので、今現在美和は13回ということで、ほぼ月1回ぐらいなんですよね。それでも結構木全（克）副委員長、大変な状況だと思うんですね。美和はこれ10月からになると少し減りますかね。だから回数の統一、甚目寺も統一していくっていうことであれば、その回数なんかもある程度同じにしていっての方がいいのかなとは思いますが。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございました。ほんとにたくさんの意見がでましたけど、皆さんの意見、貴重な意見なので、それを踏まえて、事務局の方できちっとまとめてください。</p>
事務局	<p>川原委員からありましたスタッフ募集の方法なんですが、今事務局として少しでも回数を増やしていけたらなというように考えております。そのため保護者の方、参加してるお子様の保護者の方たちに来ていただくと思いますと、ある程度来られる回数ではなく、来られる日というものでまずは保護者の方たちに参加していただけたらなというように思っております。ただスタッフの構成を見ていただきますとコーディネーター、サブコーディネーター、安全管理員という書き方をしておりますが、まず各小学校、将来的にコーディネーター、サブコーディネーターの方はいていただきたい。そのコーディネーターの方たちで、実施していただくプログラムだとか子どもの安全面、保護者への対応、そういったことを実施していただきつつ、保護者でお手伝いしていただける、例えば年10回であれば、そのうちの2回なら私は来られると。子どもたちを見てあげられるという保護者の方につきましては安全管理員として来ていただけたらなというのが理想です。当然スタッフの方も昨年度木全（克）副委員長からお話がありましたように研修、難しいことを最初に言って、そんな難しいことであれば私はできないという保護者の方もおみえになります。ですので、まずスタッフとして来ていただいて、慣れてこの見ていただいた体験によってまた来ていただければと思います。またできればコーディネーター、サブコーディネーターをお願いするスタッフは、研修を受けていただきたいと思いますが、一年でとっていただく研修ではございません。木全（克）副委員長も昨年度言われておりました。何年もかけて取られる、そういったコマの方を受講していただくというのを目標に今進めております。これが単年事業であれば慌てて実施しますが、この12校、</p>

	<p>あま市版としてやっていくためにはですね、そういった研修を受けつつ、3年、4年後を見据えたスタッフの構成だとかそういったことも考えておりますので、やっていきたいなというように思っております。今研究会の中でご意見ありましたように、一番は甚目寺の実施方法をどうしようかというご意見がたくさんあったかと思えます。三密というリスクを避けるためには、教室ではなく広い体育館で、逆に川原委員から定員を下げてはどうかというご意見もございました。先ほどと同じ話になってしまいますが、体育館が使えるかどうかというのもこれから調整させていただくことにもなりますし、色々な想定を考えまして学校ともお話をさせていただきます。実際甚目寺南小学校は、同じ教室の中で児童クラブと隣同士で実施しています。そういったところであれば、広い場所とは言えないため場所等も考えて、体育館が活用できれば一番いいかとは思いますが、今実際甚目寺の子ども教室につきましては、広い場所、美和や七宝とは違って、広い場所で実施している子ども教室ではございませんので、ほんとに形態が変わってしまうところもありますから、再度登録した保護者の方にご連絡をして、もしかしたら、逆に広い場所で運動できるなら、参加させたいという保護者の方もお見えになるかもしれません。そういったことも考えていきながら、一度検討して、研究会でまた再度結果の方をお伝えさせていただきたいと思えます。ご意見として多かったのが、今年度は10月から、多分10月というのも、昨年度話がありましたように、猛暑の対策ですよ、体育館でするのであれば7月、9月に実施するには先ほど木全（孝）委員も言われましたように熱中症の対策等もありますので、涼しくなる10月からというのを目途に調整をさせていただいて、またご連絡をさせていただきます。</p>
大西委員	<p>間違いなく10月からやるんですか。</p>
事務局	<p>今日のご意見をいただいたことをまとめさせていただいて、10月を目標に進めていけたらなと思っております。</p>
大西委員	<p>先ほど言いましたように、甚目寺は毎日やっているところも全体を通して同じような回数ですというのであれば、10月まで3カ月しかないんですね。だからその辺のところもきちっと話し合いをしていただいて、けじめをつけていただかないといつまでたっても決まらない。今思ったんですけど、甚目寺は毎日何をやっているの</p>

	<p>かなと。毎日やって、それだけの話題があるのかな。60人ぐらいで、2、3教室使わないと。</p>
事務局	<p>今までは1つの教室でやっております。</p>
大西委員	<p>70人ぐらい入るの。</p>
事務局	<p>登録はこれだけの人数されていますが、参加人数を平均いたしますと年間だいたい1回20名ぐらいの参加者ですね。</p>
立松委員	<p>半分しか。</p>
事務局	<p>そうです。ただし年平均です。多い時は40名を越えたりすることもあります。</p>
大西委員	<p>それとね、今私と村上委員、立松委員が生涯学習課のコーディネーターとしておりますけど、実際に生涯学習課でボランティアをやっていただけませんかというチラシが配布されています。これに地域の伝統文化、放課後の活動ですね、こういうものも書いてありますので、子ども教室へも援助できればと思っている。それと甚目寺の件は他と同じような回数でやるということであれば、早めに結論を出していただきたいと思いますのでよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。今、言われましたのは地域ボランティアのチラシですよ。昨年度七宝地区で実施する際等、教育部、生涯学習課と連携を取り情報を共有して、鎌倉課長と子育て支援課長の連名で声掛けをさせていただいて、放課後子ども教室を実施したいのですがと依頼文を発送しております。ただ今年度につきましては、まだアプローチをかけていない状態でありますから声掛けをして、1回でも参加していただけたらなというようには思っております。今後も生涯学習課と協力していきながらやってまいりますので、お願いいたします。</p>
井村委員長	<p>それでは次の議題に入りたいと思います。 協議事項 (4) 令和3年度放課後子ども教室について</p>

事務局	<p>令和2年度10月から七宝、宝小学校で放課後子ども教室を開設できた場合、令和3年度放課後子ども教室をどのように進めていくのか、また未実施の甚目寺東、甚目寺西小学校をどうするのかご意見をいただきたい旨を説明。</p>
井村委員長	<p>今年七宝、宝小がスタートできれば、来年度甚目寺西小、甚目寺東小の先生たちもやっぱり考えてくださるんじゃないかなと思います。お母さんたちも色んな話をしますので、甚目寺西、甚目寺東がないって保護者の方たちの声っていうのは、力になりますので、来年この2校も含め、全部あま市としてスタートできたら本当にいいかなと楽しみにしております。あとよろしかったですか。</p>
木全（克）副委員長	<p>三密を避けることで遊びがどうなっていくかですが、色んな遊びが原点に戻ってくると思っています。そしてスタッフの件ですが、現場から言うのととにかく見守ってくれる目が多ければいいということが第1段階で、研修をやって色んなレベルっていうのはおいといてですね、ゆっくりコーディネーターとサブコーディネーターとして少しずつ学んでいただければいいと思います。何が起きるか分からないので目が欲しいっていうのは現場で一番の切実な願いなんです。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございました。その他に入りたいと思いますが、事務局何かありますか。</p>
事務局	<p>本当に貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございます。今回のご意見をまとめさせていただきまして、10月を目標に進めていきます。大西委員からもお話がありましたように、後3カ月しかない状態でありますので、どのような形態で進めていけるのか小学校との調整、保護者との連絡、スタッフ等、そういった問題も考えていき、調整が終わりましたらまた委員の皆様にご覧の内容で実施したいと考えておりますというような通知を8月中ぐらいに送付できたらと思っております。また広報等に掲載していき、募集をして9月末の時にはこういった形態で登録者数は何名ありました。甚目寺については保護者から形態が変わるのでこういったご意見ありました。というような話もさせていただきつつ、進めていきたいなと思います。そのため次回の研究会を9月末、10月上旬ぐらいを予定しております。</p>

井村委員長	それでは、以上で本日の『あま市放課後子ども教室のあり方研究会』を閉会いたします。お疲れ様でした。
-------	--